
「また明日」の代わりに

「あいかわらずの」

第2稿 251218

【人物一覧表】

陽子（ようこ）女性20歳
慎太郎（しんたろう）男性20歳

1

実景点描

人気のない、終末の街の実景。

広い画というより狭い画。終末からは逃げられない
と感じたい。

陽子 M 「朝はいつもと同じ、ベーコンとたまごのホットサンド。

いつものダージリンティー。お気に入りの靴を履いて出
かけた。朝の星座占いは、さすがに今日はやつてなかっ
た。たぶん今日はみんな1位で、みんな12位だろう」

交差点

2

赤信号を待つている慎太郎（20）。

車は1台も通らない。寂れた標識、寂れた信号機。

信号を待つ足元は、そわそわ急いでいて。

慎太郎 M 「高校生の頃、毎日食べていたパンが復刻した。せつ

かく食べたのに、なぜ毎日食べていたのか思い出せない。

母親に手を引かれていた頃、あの角には、おばあちゃんが座っているタバコ屋があつたなと思い出す。いつの間になくなつたかも、思い出せない」

信号は青に変わり、慎太郎は駆け出す。

無人の交差点。

3

朝日が差し込む場所

待ち合わせ場所にひとり佇む陽子（20）。

朝日はキラキラしていて、どこか不自然にさえ感じる。

陽子 M 「いつもの今日は、いつも通りじやなくて」

慎太郎 M 「今日は、今日しか来ない。それでも僕らは」

タイトル T 「あいかわらずの」

遠くを見ている陽子。

慎太郎 「陽ちゃん！」

慎太郎の声は明るかつた。

陽子 「遅いよ、慎ちゃん！」

陽子もやつぱり、明るい声色だった。

慎太郎 「信号待ちが長くてさ」

陽子 「いつもそれじやん、走つて来てよ」

慎太郎 「いつも急に呼び出すのは陽ちゃんでしょ？」

陽子 「だつて、思つたより天気だつたんだもん」

慎太郎 「予報悪かったつけ？」

陽子 「ううん、予報なんでもう出てないよ」

慎太郎 「あ、そつか。どこ行く？」

陽子 「うーん」

慎太郎 「最後だしなあ」

陽子 「カレー。パン食べない？」

慎太郎 「また？ 最後だよ？」

陽子 「最後だから、好きなもの食べたいじやん」

慎太郎 「それはそうだけど……せつかくなら特別なものにしな

<p>4</p> <p>町のパン屋・表</p> <p>カレーパンを食べるふたり。</p> <p>慎太郎 「最後、カレーパンかあ」</p> <p>陽子 「なに？ 文句ある？」</p> <p>慎太郎 「だつて高校のときから死ぬほど食べてるとよ？」</p> <p>陽子 「カレーパン嫌いだつたもんね」</p> <p>慎太郎 「有り得ない！つてここのかレーパン教えてくれたんだよ ね」</p>	<p>陽子 「特別なものって？」</p> <p>慎太郎 「うーん、夜景の見える、高級フレンチ、みたいな」</p> <p>陽子 「そんな店、もうやつてないって」</p> <p>慎太郎 「えー、そうかあ」</p> <p>陽子 「パン屋もやつてるかわからないけどねー」</p> <p>歩き出すふたり。</p>
--	---

陽子「そう、購買のカレーパンだけ食つて嫌いとか言つてんじ
やねー！つてね」

慎太郎「でも、最後お？」

陽子「カレーパン食べ行こ！つていいつも言つてたのは慎ちゃん
じやん」

慎太郎「それはさあ……」

陽子「好きだつたでしょ？」

慎太郎「……好きだつたよ？」

ふと、ふたりはバツチリ目が合う。

陽子は即座に逸らす。

陽子「でしょ？だから、カレーパンで正解じやん」

慎太郎「……そうだね」

陽子「そうだよ」

慎太郎「いつもの、カレーパンに感謝」

陽子「(笑つて) なにそれ」

大学・広場

5

ガランとした広場。

ふたりがやつてきて。

陽子 「最後が、毎日来てる場所お？」

慎太郎 「俺、今年の学祭楽しみだつたんだ」

陽子 「ふうん。今年のゲスト誰だつたつけ？」

慎太郎 「違うよ！ 陽ちゃんのミスコン！」

陽子 「ねえ！ やめて！ ゴリ押しされただけだから！」

慎太郎 「知つてる。すつごい文句言つてた」

陽子 「……それが楽しみだつたの？」

慎太郎 「うん。一生イジつてやろうかなつて」

陽子 「ねえ！ 最低！」

慎太郎 「だから、できなかつたミスコンの再現やろうよ」

陽子 「ねーえ、だるいって」

慎太郎 「今年のミスキャンパスを発表します！ ドコドコドコドコ

…ジャーン！ エントリーナンバー2！ 陽子さんです！

きや???.」

陽子「(笑って) やつた!」

慎太郎「おめでとう?..」

陽子「みんなありがとう!」

慎太郎「では、今の心境をお願いします!」

慎太郎、司会者がエアマイクを陽子に渡す。

陽子、泣いてるフリをして。

陽子「ここまで応援してくれた皆さんのおかげです! まさか、

私が選ばれるなんて……」

慎太郎「そうですね……まさかアピールタイムで大食いを披露するとは……」

陽子「コラ! そんなわけないじやん!」

慎太郎「陽ちゃんの一番のアピールポイントでしょ?」

陽子「ミスコンで大食いするか? 女の子らしいことアピールするもん!」

慎太郎「陽ちゃんの女の子らしいとこ?」?

陽子「えーと……」

6

高校・校門前

慎太郎 「（笑って）えーっと？」

陽子 「ええー……？ もう！ ばか！」

慎太郎 「あー今年開催できても、きつとミスにはなれなかつた

なあ」

陽子 「なんだと！」

二人ともが笑つて。

ふざけながら去つていく。

校門にはバリケードがされており、中には入れない。
閉じ切つた校舎の窓。明かりは点いていない。人気
はない。

陽子 「入れないや

慎太郎 「さすがにね」

陽子 「体育祭のときの慎ちゃんの真似したかったのになあ」

慎太郎 「ねーえ！ それいつまでイジるつもり？」

陽子 「ん？ 一生」

慎太郎 「じゃあ俺も卒業式の話、一生イジるから」

陽子 「ねえ！ 反則！」

慎太郎 「卒業生代表……」

陽子 「ねえ！」

慎太郎 「一生笑えるんだよなー」

陽子 「一生笑つてろよ」

慎太郎 「最高の人生じやん」

陽子 「……明日には笑えないよ」

慎太郎 「明日だつて笑つてるよ」

陽子、慎太郎をどつく。

慎太郎 「痛いって」

陽子 「ばか」

慎太郎 「え、ごめん」

陽子 「……ばか」

慎太郎 「……」

陽子、振り向いて、去つて行く。

慎太郎、すぐに追いかける。

公園

7

慎太郎 「陽ちゃん、ごめん」

陽子 「……」

慎太郎 「ごめんってば」

陽子 「……慎ちゃんのばか」

慎太郎 「……ごめん」

陽子 「……」

陽子、立ち止まる。再び、慎太郎をどつく。

慎太郎 「痛いって」

陽子 「……明日とか、言うなよ」

慎太郎 「……陽ちゃんが言つた」

陽子 「……一生とか、言うなよ」

慎太郎 「それも陽ちゃんが言つた」

陽子 「……いつも通りしないでよ！」

慎太郎 「……」

陽子 「今日が最後なんだってば」

慎太郎 「うん」

陽子 「世界が、なくなつちやうんだってば！」

慎太郎 「うん」

陽子 「……死んじやうんだってば！」

慎太郎 「うん」

陽子、その場にしゃがみこむ。

陽子 「……」

慎太郎 「……」

慎太郎は、陽子の肩に手を置く。

陽子 「……いなくならないでよ」

慎太郎 「ずっといるよ」

陽子 「嘘！全部消えちやうんだって！」

慎太郎 「俺の中に、ずっといる」

陽子 「私の中にだつているよ！」

慎太郎 「……いつも通りしてたら、いつも通り会えるよ」

陽子「嘘」

慎太郎「陽ちゃんから電話が来る」

陽子「……慎ちゃんが遅刻してくる」

慎太郎「陽ちゃんが、ばか、って言う」

陽子「一緒に、並んでカレー。パン食べて」

慎太郎「一日中くだらない話して」

陽子「一日中、笑つてる」

慎太郎「別れ道で立ち止まってしやべつて」

陽子「私が見えなくなるまで、慎ちゃんは手を振つて」

慎太郎「お互い切らないから何時間も電話して」

陽子「気付いたら夜中で」

慎太郎「俺がまた、寝坊する」

陽子「また、慎ちゃんは遅刻してくる」

慎太郎「俺は、ごめん、つて笑つてて」

陽子「私が、ばか、つて笑つて」

慎太郎「文句言いながら、またカレー。パンを食べる」

陽子「……いつも通りだ」

教会

夕日が差し込む教会。

ふたりは座つていて、しっかりと手を繋いでいる。

慎太郎 「次会うときは、もっとモテモテだから」

陽子 「え？ 慎ちゃんが？」

慎太郎 「はあ？俺は今でもモテモテですけど？」

陽子 「私はー、超美人で、スタイル良くて、メイクうまくて、

慎太郎 「それじゃ、ダメ？」

陽子 「私でいいの？」

慎太郎 「陽ちゃんだけだね」

陽子 「……調子いいなあ」

慎太郎 「世界最後の日、笑つて過ごせる人」

陽子 「……感謝してよね」

慎太郎 「陽ちゃんこそ」

陽子 「……うん、ありがとう」

少食で

慎太郎 「それ、もう陽ちゃんじやないじやん」

陽子 「はあ？」

慎太郎 「大食いでいてくれないと」

陽子 「そこ？」

ふたりの笑い声が響いている。

影が、長く長く伸びて、一瞬、影がなくなる。

風の音が響き始めて、徐々に大きくなる。暗転。

了